
仮面ライダー㍻ [masked rider givede]

壱屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーK「masked rider give'de」

【Nコード】

N6400P

【作者名】

罍屋

【あらすじ】

咎無き罪により存在を抹消された男。襲い来るは、嘗ての友人達・
・。彼は闘う。友人達の利用されし魂を救う為に。彼は闘う。自らを陥れた者を暴く為に。仮面ライダーとして・・・・

concealed prologue. (前書き)

選択されたフォルダの閲覧は制限されています。

concealed prologue.

❧❧❧❧❧

夜繰市某所、地下深くに存在する一枚の扉。

その上には“第一アリーナ”の文字が記され、扉の向こうからは微かなざわめきが聞こえてくる。

その扉を開き、男は中へと歩を進めた。

眼前に広がるは、中世ヨーロッパのコロッセウムを思わせる、円形の闘技場。

周囲を取り囲むは、幾重にも張られた透明な防刃・防弾ガラスによって守られた観客席。

そして、彼を見詰める百を超える好奇の視線。

一様に目元を覆う悪趣味なマスクによって、素性は判らない。

とはいえ

（マスクが無くとも、俺には判らない、か）

現状では、彼に名前は無い。

俗世間から隔離されて、三年。

その間の世界情勢など、知る由も無い。

ゆっくりとアリーナの中央に向かいつつ、彼は思考する。

（この三年間、あの場所から出ることは叶わなかった。それが監視付きで、しかもビジネスに利用するためとはいえ、曲なりにも外に出れたんだ）

アリーナの中央で立ち止まり、そこに置かれたスーツケースを開くと、

（必ず、俺を嵌めたヤツを暴いてやる！）

その中に置かれていたバックルを手にとった。

そして、前方の放送席に座る男に目を遣る。

それを確認するや、スピーカーから中年男性の声が響く。

『お待ちせ致しました、紳士淑女の皆様方。彼の持つバックルこそが、我々の開発した商品です』

男の台詞が途切れると、耳に着けられたイヤホンから指示が出る。

「そのバックルを腰にあてなさい。その後は、説明通りに」

「了解だ」

彼がバックルを腰にあてると、バックルからベルトが伸び、腰に巻き付いた。

そのサイドに付いたケースから、一枚のメモリーカードを取り出すと、顔の右側に翳す。

あたかも、そこに刻まれた文字を観客に見せ付けるように。

『我々が科学の粋を集めて作り上げた、MRSの完成品一号!』

そのまま、バックルの上部に備えられたメモリソケットにメモリーカードを差し込み、ソケットごとバックルに押し込んだ。

「変・・・身!!」

途端に、彼を白い光が包み込んだ。

数瞬の後、光が消えると、そこには先程までとは違う彼の姿があった。

眉間から伸びる三本の角。

紅く輝く一對の複眼。

開かれたバックルは、メモリーカードに記されていたのと同様の“
ヰ”の文字を模している。

『仮面ライダージヴィーデです!!』

ヰヰヰヰヰ

concealed prologue. (後書き)

ハイ、オルジナルの仮面ライダーですw

タイトル訳…“隠蔽された序幕”

タイトル通り

時期が来るまで隠蔽された
この続が存在します。

誤字脱字、アドバイス等
よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6400p/>

仮面ライダーㄨ [masked rider givede]

2011年1月3日23時45分発行